

生物多様性とは

すべての生物の間の変異性をいうものとし、
種内の多様性、**種間**の多様性及び**生態系**の多様性を含む。

【生物多様性条約（1992年採択、1993年発効）第2条】

種内の多様性



(例) サクラソウ
遺伝的に複数の
地域集団が存在

(例) アサリの貝殻
貝殻の色や模様
は千差万別

種間の多様性



生態系の多様性



生物多様性とは：違いがあると何がよい？

同じ種の中で、また種の間でも違いがあることで…

● 様々な恵みが得られる

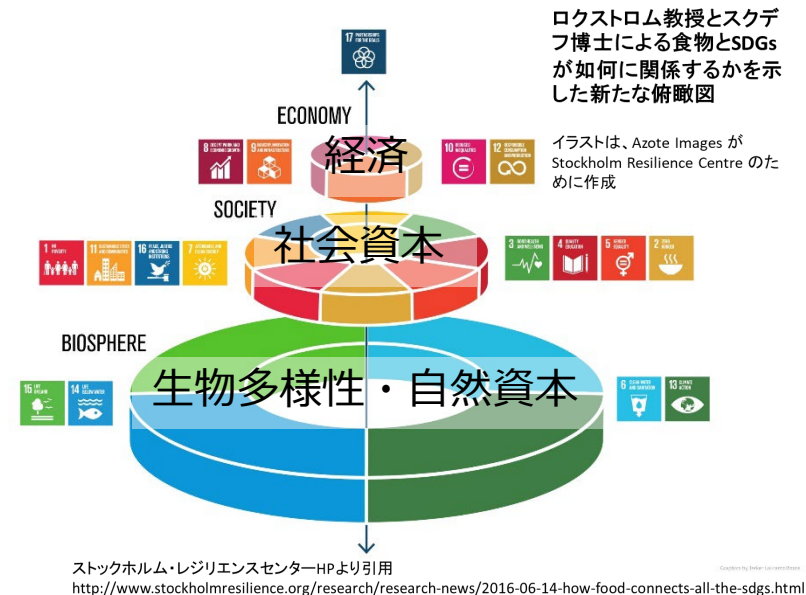
- ・ 食材、薬
- ・ 木材、衣類（綿・絹・麻）
- ・ 景観（松林、ブナ林、田んぼ、里山）
- ・ 文化の根源。癒しや閃き。
- ・ 洪水を防ぐ機能（森林、湿地）
- ・ 高潮を防ぐ機能（海岸防災林やサンゴ礁）



● 生産性・適応力・強靱性が増す

- ・ 光合成、貯留、捕食、分解と様々な機能
- ・ 厳しい環境で育つ種、よく増える種等様々な特性
- ・ 病気に強い個体、寒さに強い個体等種内の様々な強み
- ・ 生態系全体の生産性が高くなる
- ・ 複雑に絡み合い、補完し合い、変化に強くなる
- ・ これにより生き延び、進化につながってきた

➡ 生物多様性・自然資本は社会経済の基盤



➡ 生物多様性とは生存基盤として不確実性の高い“変化の時代にこそ”必要なもの